

(様式第2号)

地域振興推進費事業実績・自己評価書 (実績)

令和4年3月31日

提出区分	実績	整理番号	20	課題区分	C		
横断的な課題	コロナ下における木曾らしさを活かした地域づくり						
地域重点政策						木曾地域振興局	
実施機関	木曾地域振興局			担当課	所属	木曾農業農村支援センター	
事業名	木曾子牛産地の維持・発展				電話	8-238-2343	
					E-mail	kiso-nosei@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要等	目的 (目指す姿)	木曾牛の学校給食を通じた「食育」の推進及び生産技術の向上					
	現状と課題	<p>1現状 (1)県内最大の子牛産地。 (2)県内唯一の家畜市場である長野県中央家畜市場が木曾に開設。 (3)出荷される子牛のうち木曾の子牛は26%(木曾郡内83頭/全体出荷313頭中※)を占める。 ※令和3年8月家畜市場データ</p> <p>2課題 (1)子牛産地の維持 ア 高齢化及び後継者不足に伴い木曾地域の農家戸数が減少している。 イ 母牛は、約10年で更新(廃牛)となるが、この精肉は、肥育牛肉と比較すると品質は劣り、安値での取引となっている。 ウ 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、日本全国での牛肉消費が落ち込んでいる。 (2)分娩事故 経営に大きく影響を及ぼす、分娩事故の未然防止を目的とした農家の技術習得が必要である。 分娩事故(流産・死産)頭数 H30 : 24頭、R元 : 32頭、R2 : 19頭</p>					
	内容 (変更後の内容)	<p>1木曾牛を活用した学校給食による食育 (対象校:18校) ア 木曾子牛の生産概要や食卓に並ぶまでの過程について食育授業を実施する。 具体的には、学校教職員または栄養士へ食育授業資料の説明を行ってもらう(教職員等へは農業農村支援センターからオンラインで事前レクを行う)。 イ 希望校には、繁殖及び肥育生産者による出前授業を行うことで、木曾牛について理解を深める。 ウ 母牛から産まれた子牛の肥育過程を、「全農長野三岳牧場」で見学してもらい、肥育までの飼養について理解を深める。 ※イ及びウは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から計画変更になることがある。 ※全農長野三岳牧場までの交通費は学校側が負担。⇒ 学校給食に提供することにより消費拡大の一助となる。</p> <p>2繁殖技術研修会 ア 分娩事故防止技術 (講師:地元獣医師) 分娩事故防止を目的とした、飼養管理技術の習得を図る。 イ ICT活用における省力化 (講師:メーカー) 主に「牛温恵」の活用について、事例を踏まえながら知識を習得し、現場での省力化につながる利便性も併せて理解を深める。また、分娩事故の防止にもつなげる。</p>					
事業期間	令和3年4月			～	令和3年12月		
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考			
	食育事業「木曾牛給食の日」	・学校給食における木曾牛代 ・食育事業資料代 ・手指消毒用アルコール ・ブーツカバー	291,520	木曾牛代 ○中学校 52kg*(2,480円/1kg) ≒ 128,960円・・・① ○小学校 62kg*(2,480円/1kg) ≒ 153,760円・・・② 計282,720円 三岳牧場視察費用 アルコール及びブーツカバー 8,800円・・・③			
	繁殖技術研修会	・研修資料印刷代 ・会場使用料 等	95,000	印刷代 ≒ 84,550円 会場使用料・・・10,450円・・・②			
合計			386,520				
達成指標状況及び	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	食育授業の理解度(アンケート調査)		満足度:90%	80%	○ 達成		
	研修会参加者		40名	22名	○ 一部達成 ● 未達成		

事業 成果	<p>1木曾牛を活用した学校給食による食育</p> <p>ア 管内小中学校及び木曾養護学校を対象に、学校給食「木曾牛給食の日」を実施した(R3.11.15からR3.12.22)。</p> <p>イ 木曾牛に関する食育授業を行い、生徒への理解を高めることができ、多くの生徒から「木曾牛給食おいしい」「また食べてみたい」との喜びの声が寄せられた。</p> <p>また、南木曾小学校においては校内放送を活用した授業を実施(R3.12.22)。</p> <p>ウ 全農長野三岳牧場視察を行い、子牛や肥育牛の生産過程の理解を深めることができた(R3.11.11)</p> <p>2繁殖和牛研修会</p> <p>木曾牛の飼養管理及び畜産ICTの活用方法について外部招聘講師を招き研修を開催し、管内の診療の実態と飼養管理及び畜産ICT(牛温恵)に関する技術や知識について理解を深めることができた(R3.11.25)。</p> <p>また、研修会終了後、生産者との畜産ICTの情報交換ができた。</p> <p>一部達成の理由:食育授業の資料について、小学校低学年から中学校までと範囲が広いいため、理解度にばらつきが出てしまった。</p>
今後の方向性	<p>木曾牛給食の日を継続的に実施し、木曾の畜産業に関する食育活動を継承していく。</p> <p>畜産ICTを活用する生産者を増やし、省力化及び生産ロスの減少を図る。</p> <p>群外に向けた木曾牛ブランドの推進も実施する。</p>

別紙



○学校給食「木曽牛給食の日」の様子(福島小学校)



○木曽牛給食の献立と、食育授業資料(南木曽中学校)



○木曽牛ハンバーグ(南木曽小学校)



○木曽牛丼(大桑中学校)



○JA長野全農三岳牧場視察



○繁殖和牛研修会